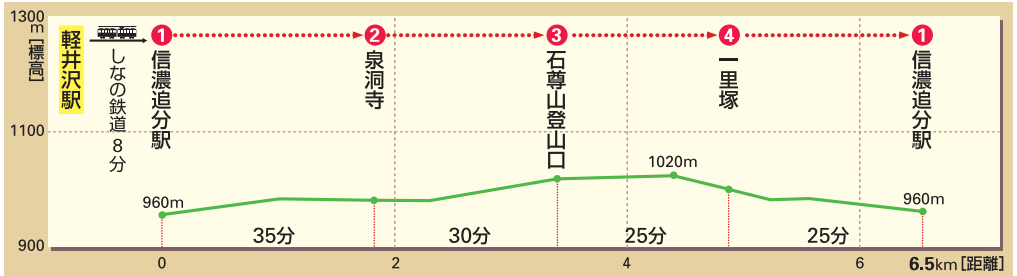


12 信濃追分散策

旧街道の宿場町に史跡と文学者たちの足跡をたずねて

- 手軽なウォーキング
- 歩行時間 **1時間55分**
- 歩行距離 **6.5km**



軽井沢も信濃追分まで来ると古くからの落ちついたたずまいが色濃く、のどかな雰囲気が漂う。中山道と北国街道の分岐である分去れも近く、往時をしのばせる遺構も随所に残る。追分はまた文学者たちに好まれた地でもあり、中でも堀辰雄は住居を構え、数々の傑作を執筆した。歴史と文学を訪ねて追分宿をひと回りしてみよう。

信濃追分駅①駅前の道を左へ道なりに進むと、国道18号の下をくぐったところで旧中山道に出会う。左へとり、昇進橋を渡って、右手に見えてくる旧旅館は、堀辰雄や立原道造が滞在した油屋旅館である。左手には堀辰雄の旧居を保存した堀辰雄文学記念館が建つ。このあたりが追分宿の中心部で、すぐ先は本陣があったところ、その先には高札場が復元されている。

堀辰雄の作品にも描かれた石仏がたたずむ泉洞寺②、榊形の茶屋を見て国道18号に出れば、すぐ先が分去れで石碑や石仏がまつられている。この先から石尊山登山口③付近の別荘地を回り、一里塚④や追分宿郷土館、浅間神社をたずねて信濃追分駅①へもどろう。

アドバイス 四季折々に風情があるが、新緑の春から初夏、紅葉の秋、初冬の枯れ木立の時期は特に味わい深い。歩き足りない場合は⑯旧中山道踏破コースを参考に御代田あたりまで旧中山道を歩くのもおすすめ。



▲ 常夜灯などが建つ分去れ。左が中山道、右が北国街道



▲ 堀辰雄が愛した泉洞寺の石仏

